

3

読み取って記述する

練習問題

〔表現〕

1

中学生のAさんは、授業で「地元の商店街を紹介する」スピーチをするため、商店街の方にインタビューを行いました。次のインタビューの様子と、Aさんが書いた「メモ」を読んで、あとの問いに答えなさい。(埼玉)

インタビューの様子

Aさん 「本日はありがとうございます。さっそくですが、この商店街の名物といえば何ですか。」

B店長 「はい。この商店街の名物といえば、何といっても築百年をこえる時計塔です。大正時代の建築物であり、商店街の象徴です。遠方からわざわざ見に来られる方もいます。」

Aさん 「なるほど。では次に、商店街にあるお店や商品についてのお話を聞かせてください。」

B店長 「そうですね。この商店街は長い歴史があるため、伝統のあるお店がたくさんありますよ。特に通りの中心にあるパン店のあんぱんは、五十年以上売れ続けている人気商品です。」

Aさん 「それはすごいですね。わたしも以前食べましたが、すごくおいしかったです。何か特別な工夫があるのでしょうか。」

B店長 「一度にたくさん作らずに、少ない数を一日に何度も焼き上げることで、常に焼きたてを提供できるようにしているそうです。お店といえば他にも、人形店や呉服店など伝統的な品物を扱っている店舗や、若い人たちに人気のスポーツ用品店や洋菓子店など、商店街ならではの様々な専門店がありますよ。」

Aさん 「色々なお店を回りながら、ぶらぶらと歩くだけでも楽しそうで

すね。」

B店長 「そのとおりです。その場合は、地元の高校生がデザインした、商店街オリジナルの地図をおすすめしています。一枚どうぞ。」

Aさん 「ありがとうございます。手書きのイラストやコメントがたくさん入っていて、とても見やすい地図ですね。これはどこで手に入るのでしょうか。」

B店長 「商店街の中にある案内所で散策用に配っていますよ。」

Aさん 「わかりました。次に、商店街の今後の課題について教えてください。」

B店長 「課題としては、商店街全体での一体感が少し足りないことでしょうか。また、一部のお店では、技術を受け継ぐ若い世代の人がいないという問題があるようです。」

Aさん 「それは、今後社会へと出ていく私たちにも関係のある問題ですね。」

B店長 「そうですね。中学生のみなさんには、ぜひ色々な職業に興味をもって、調べたり体験したりしてほしいと思います。」

Aさん 「わかりました。学校でも伝えたいと思います。」
(インタビューが続く)

- 商店街の名物
 - ➔ 時計塔 (大正時代の建築物)
- 通りの中心にあるパン店
 - ➔ 50年以上売れ続けているあんパン
 - ➔ 常に焼きたてを提供
- 人形店・呉服店 (伝統)
- スポーツ用品店や洋菓子店 (若い人に人気)

商店街オリジナルの地図

- ➔ 地元の高校生がデザイン

- 課題①
 - 商店街全体の一体感が不足
 - ➔ 商店街のお祭りを企画中
- 課題②
 - 一部のお店で、技術を継承する人がいない

↓

色々な職業について、調べたり体験したりしてほしい

☆ 私たちにも無関係ではないので、何かできることはないか、スピーチのまとめとして考えておく。

(1) 「ぶらぶらと歩く」とありますが、同様の意味をもつ二字の熟語を、

インタビューの様子から探し、書き抜きなさい。

(2) 【メモ】の内容には、インタビューの様子からは得ることのできない情報が入っています。AさんはB店長にどのような質問をして、その情報を得たと考えられますか。質問文を考えて書きなさい。

！アドバイス

(2) インタビューの様子と【メモ】を照らし合わせる。【メモ】に書かれている内容や、インタビューの様子に線を引くなどして、何が得ることのできない情報なのか区別しておこう。

インタビューの様子から得られない情報を見つけたら、その話題が出た流れを確認し、どのような質問をしたのかを考える。会話文と資料の読み取りなど、複数の情報がある場合は、同じ意味の言葉や情報の関連を整理して解答しよう。

報がある場合は、同じ意味の言葉や情報の関連を整理して解答しよう。

2

【表現】

総合的な学習の時間で「誰もが住みやすい社会の実現のために何ができるか」というテーマのもと、Aさん、Bさん、Cさんは「やさしい日本語」について調べました。次の【発表原稿】は、Aさんたちが調べたことを学級で発表するために作成した原稿です。【発表原稿】及び資料1～資料5をふまえて、あとの問いに答えなさい。

〈長崎〉

【発表原稿】

A 私たちは「やさしい日本語」について調べました。「やさしい日本語」とは、外国人などにもわかりやすいように配慮した日本語のことで、現在、全国的に導入する動きが高まっています。

B 「やさしい日本語」の導入の背景を説明します。資料1と資料2から、日本に住む外国人は□□という現状がわかります。したがって、災害などの緊急時に、日本に住む外国人にも情報を伝えるためには工夫が必要になります。そのすべての言語に対応するには限界があります。そこで、情報を広く伝えるための手段として「やさしい日本語」を導入する動きが高まっています。現在では自治体からのお知らせなど、さまざまな分野で取組が広がっています。

C ここで、具体的に「やさしい日本語」の例を紹介します。例えば、「土足厳禁」は、「ここでは 靴を 脱いでください」というように、熟語はわかりやすい表現に置き換えます。また、文節や言葉のまとまりごとに一字分空けて書くと、わかりやすくなります。さらに、資料5のような工夫もできます。

A こうしてみると、「やさしい日本語」は、少しの工夫でいろいろな立場の人に配慮することができることを教えてください。私たちは、誰もが住みやすい社会の実現のために、日常の場面で活用できるさまざまなコミュニケーションのあり方について、さらに調べていきたいと思えます。以上で発表を終わります。

3

〔表現〕

次は、中学生の高木さんが、総合的な学習の時間の「地域の魅力について考えよう」という単元で、同じ班の小林さん、坂本さんとともに、自分たちで設定したテーマについて調べ、レポートにまとめたものです。これを読んで、問いに答えなさい。

〔北海道〕

テーマ 方言のもつ力

2班 高木・小林・坂本

1. はじめに

「地域の魅力」について考えるため、地域に特有の言葉である方言に着目した。近隣のX市が方言を観光PRに活用していることを知り、その取り組みについて詳しく調べることにした。

2. 調査方法

- ・X市役所のホームページの閲覧。
- ・X市役所観光課職員へのインタビュー。

3. 調査結果

(1) 方言を観光PRに活用しようとした背景

- ・観光課で「X市の魅力」についてアンケートを実施した。
- ・アンケート項目の一つである「X市の方言に対するイメージ」について、観光課の職員が予想していたものと異なる結果が得られた。

→X市の方言は観光資源になり得ると気付いた。

※グラフ（X市役所のホームページより引用）を参照。

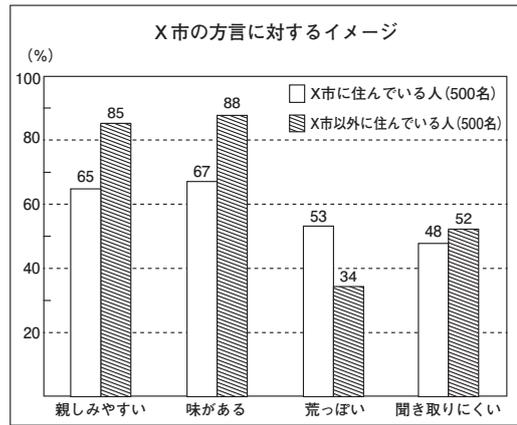
(2) 活用例

- ・方言によるPR動画を作成し、インターネットで公開した。
- ・地域の特産品に方言を生かしたキャッチコピーを付けた。

(3) 成果

- ・方言によるPR動画や、特産品に方言でキャッチコピーを付けたことが、インターネットやテレビなどで話題となった。
- X市への観光客数が前年度よりも増加した。

グラフ



4. 考察

5. 参考資料

「X市の魅力調査」X市役所 <https://www.....>〇年〇月〇日閲覧

4. 考察

X市では、方言を観光PRに活用したことで、観光客数が前年度よりも増加した。こうした活用例や成果から、方言には、「親しみやすい」や「味がある」といったイメージがあることがわかった。

(A) 下書き

(B) 話し合いの場面

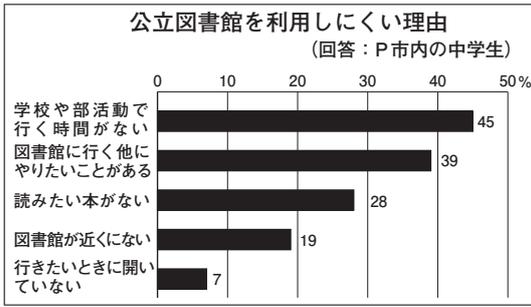
(2)

次は、「4. 考察」の〔 〕について、高木さんが書いた下書き(A)と、それについての班での話し合いの場面(B)です。話し合いの内容を踏まえ、(A)を百字程度で書き直しなさい。ただし、二つの文で書くこと。

- (1) 線「X市の方言は観光資源になり得る」とありますが、X市役所観光課の職員がそのように気付いた理由について、次の条件1～3に従って書きなさい。
- 条件1 解答欄に示した表現に続けて、一文で書くこと。
- 条件2 グラフの内容を根拠にして書くこと。
- 条件3 グラフの「X市に住んでいる人」と「X市以外に住んでいる人」を比較して書くこと。
- アンケートを行った結果、

<p>(高木さん)</p> <p>「4. 考察」の下書きを書いたんだけど、なんか上手く書けなくて。どうすればいいかな。</p>	<p>(小林さん)</p> <p>一文目の方言の観光PRへの活用について、もっと具体的に書いた方が、観光客数が増加した理由がわかりやすいよね。</p>
<p>(高木さん)</p> <p>わかった。二文目はどうかな。</p>	<p>(小林さん)</p> <p>「考察」だから、二文目にはX市の方言の観光PRへの活用例や成果から、自分が考えたことを書く必要があると思うよ。</p>
<p>(坂本さん)</p> <p>下書きに書いている方言のイメージは、観光課の方が行ったアンケートの結果だね。それを書くんじゃなくて、レポートのテーマである「方言のもつ力」について、自分で考えたことを書くといいんじゃないかな。</p>	<p>(高木さん)</p> <p>そうか。じゃあ、方言にはどんな力があるかということについて、地域の魅力と関連付けて書いてみるかな。なんか書けそうな気がしてきた。</p>

(1) 資料1と資料2をもとに、
Iにあてはまる内容として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。



資料1

ビデオ通話やウェブ会議などで気をつけていること (全体)

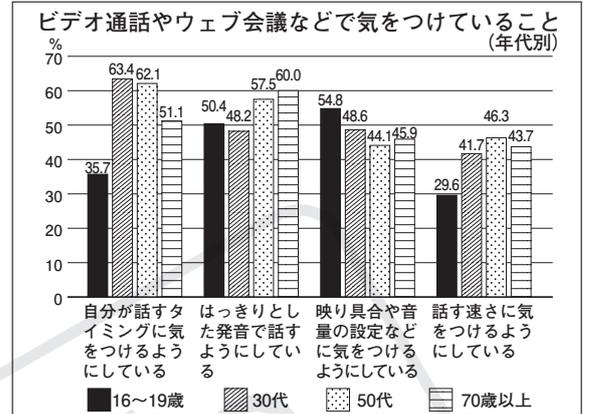
自分が話すタイミングに気をつけるようにしている	58.4%
はっきりとした発音で話すようにしている	53.6%
映り具合や音量の設定などに気をつけるようにしている	48.3%
話す速さに気をつけるようにしている	42.1%

(文化庁「令和2年度『国語に関する世論調査』」から作成)

資料4

公立図書館の利用時に困っていること
(回答：P市立図書館利用者)
(自由記述から抜粋)

私語が多くて読書に集中できない
館内の案内表示がわかりにくい
階段や段差が多くて歩きにくい
乳幼児が過ごせるスペースがない
荷物が座席に置かれていて座れない



(文化庁「令和2年度『国語に関する世論調査』」から作成)

25

【放送原稿】
私たちは、P市役所主催の「利用しやすい公立図書館にするため」ができること」というテーマのウェブ会議に参加することになりました。会議に向けて準備する中で、私たち中学生の立場でできることもあるということに気づきました。そこでみなさんに次のことを提案します。
全ての人が利用しやすくなるように、公共の図書館では Ⅲ しましう。

(3) 「校内放送でみんなに呼びかけることにしよう」とありますが、Aさんたちは、資料4をもとに【放送原稿】を作成しました。資料4から中学生が協力できる項目をすべて選び、それらの内容をふまえて Ⅲ にあてはまる形で二十五字以内で書きなさい。

20

書きなさい。

(2) 資料3や【話し合い】をもとに、Ⅱにあてはまる内容を二十字以内で

□

ア 自分が話すタイミングに気をつける人の割合が最も高いけれど、10代後半の人は他の年代に比べてその割合が低いよ
イ はっきりとした発音で話すようにしている人の割合は半数を超えていて、10代後半の人は30代の人よりその割合が低いよ
ウ 映り具合や音量の設定などに気をつける人の割合は半数程度だけれど、年代別では10代後半の人の割合が最も低いよ
エ 話す速さに気をつける人の割合は他の項目より低く、年代別では年代が上がるにつれてその割合が高くなっているよ

2

〔表現〕

中学生の桃子さんは、健太さん、絵理さんと一緒に【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】を見ながら、情報を得る手段として各メディアがもつ強みと弱みについて話し合った後、新聞の強みについて【資料Ⅲ】のようなメモを書きました。次の【話し合い】を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔岡山〕

【話し合い】

桃子 まずは【資料Ⅰ】を手掛かりにして、それぞれのメディアの特徴を考えてみようか。

健太 僕は普段よく使っているから、インターネットの結果が気になる。□□という結果には、手軽に情報を得られる一方で信頼できない情報が多いというインターネットの特徴が関係している気がするよ。

絵理 その考え方は正しいかもしれないね。でも、弱みはあるけれど、利便性が高いからこそ、どの年代でもインターネットを重要な情報源だと考える人が多いのだと思うよ。

桃子 テレビはどう？ 重要度も信頼度も高い傾向にあるね。

健太 信頼度が高いから、信頼できる情報を得られることがテレビの強みと言えそうだね。重要度が高いのは、音声と映像で情報を伝えてくれるので、受け身でいられて楽だからかな。

絵理 確かにね。だけど、録画しない限り視聴する時間や順番を自分で決められない点は弱みかもしれないよ。

健太 新聞はどうか。10代、20代では重要度も低いし、【資料Ⅱ】からわかる平日の行為者率も5%と低いよ。

桃子 でも、行為者率が低いわりに、重要度や信頼度はとても高いと言えるんじゃない？

健太 必要なときだけ読むという人や、まったく読まないけれど信頼できると思っている人が多いのかもね。

新聞の強みを理解するには、【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】からわかるこ

20

15

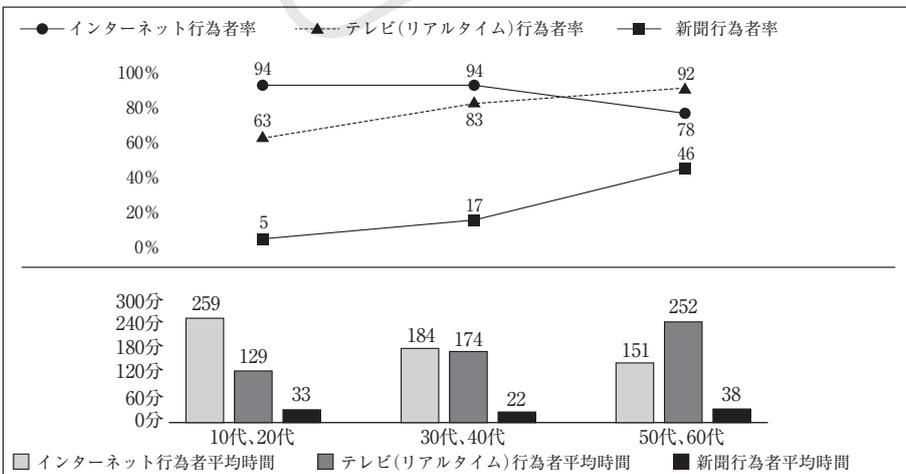
10

【資料Ⅰ】各メディアの情報源としての重要度、信頼度

	テレビ		新聞		インターネット	
	重要度	信頼度	重要度	信頼度	重要度	信頼度
10代、20代	80%	59%	30%	58%	87%	34%
30代、40代	87%	60%	47%	66%	83%	29%
50代、60代	91%	65%	73%	71%	65%	28%

〔重要度〕は「情報を得るための手段（情報源）としてどの程度重要か」という質問に肯定的な回答をした人の割合、〔信頼度〕は「信頼できる情報がどの程度あると思うか」という質問に肯定的な回答をした人の割合を示している。

【資料Ⅱ】各メディアの行為者率・行為者平均時間（平日）



〔行為者率〕はそのメディアを利用する人の割合、〔行為者平均時間〕は行為者の1日あたりの平均利用時間を示している。

〔資料Ⅰ〕・【資料Ⅱ】は総務省「令和2年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」から作成

絵理 と以外にも目を向ける必要がありそうだね。新聞が本や雑誌と同じ活字メディアだということに注目したらどうかな。映像メディアのテレビや、複合メディアのインターネットにはない強みが見つかりそうだよ。

桃子 他のメディアとの違いを考えることで、新しい気づきを得られるかもしれないね。私は新聞の強みについてもっと深く考えてみようかな。

